

山梨県の抱える環境への取組みとEVIの活用報告(1)

12月24日～26日山梨県を訪問2014年12月24日(協力:園田氏)



■やまなし県観光推進機構様。観光客の増加と県産品の浸透を目的に平成21年4月に設立。商工会議所、商工会連合会、旅館衛生労働組合他、県内企業約330社を会員に持つ。EVIの取組みに賛同頂き、セミナーを開催する運びとなりました。

■果樹園ジャンファーム様。減農薬でぶどうを生産されており、ジュース・ジャム、甘露柿を販売されている。生産量も限られている一方、他製品との差別化にも苦労されているため、EVIシールを用いた付加価値販売を検討中です。

■山梨県庁様。桃の廃棄量が多いことから、サクランボのような6次産業化を提案。しかし大量の農産物に応用する難しさや代金回収の仕組みを懸念されたが、県産のクレジットを利用したEVI商品は好印象。道の駅で販売提案もいただきました。



無添加ぶどうジュース

■えほん村様訪問。八ヶ岳高原にある山梨・長野両県の美術館・博物館32館で構成され、愛称は「八ヶ岳ミュージアム・リンク。「観ること・知ること・立ち止まること」というコンセプトの元、個々の研究や調査、実践活動を通じて、相互の親睦と発展、地域への文化的な貢献を図ること目的に活動されています。

毎年3つのエリアで、アートフェスティバルを2泊3日で実施されているとのことで、これをオフセットイベントとすることを提案。来年のフェスティバルの打合せにて検討頂くこととなりました。なお、えほん村の松村太三郎氏は木彫り彫刻家で、現在は輸入材を使用されているが、カラマツなどの県産材使用の検討をお願いしました。



八ヶ岳ミュージアム協議会のみなさん



どこでもアート・アートフェスティバル



村松氏の作品

山梨県の抱える環境への取組みとEVIの活用報告(2)

12月24日～26日山梨県を訪問2014年12月25日(協力:園田氏)



■山梨県事業者様訪問。生態計画研究所は、早川町にある光源の里温泉「ヘルシー美里」及び、南アルプス邑「野鳥公園」の指定管理者。野生動物の知識や環境教育の経験豊富なスタッフを常駐させ、自然や文化を楽しんでもらえるような、様々な体験プログラムを実施しています。

そこで、プログラムをオフセットとしたり、温暖化防止の教育等に利用するなど、EVI活用の可能性を検討頂けるようお願いをいたしました。

■社会福祉法人忠恕会様訪問。この度、自社ブランドの洗剤をEVI商品として検討頂けることとなり、EVIシールを利用したオフセット商品が県内で開発された場合、その貼付業務も積極的に受託したい旨承った。それにより、障がい者の方に環境意識が芽生えるベネフィットがあるとお考え頂けたよう。このように、業務の目的をしっかりと障がい者に伝えることにより、単純な作業であっても積極的に、やりがいを持って働けるように配慮されていると感じました。

■女神湖リゾートプランニング様。エリアの観光地において、G&Cの利活用を提案していくにあたり、その先駆けとなった女神湖の事例を手がけられている土屋氏に、具体的な取組事例、特に配慮した点や苦勞した点について伺った。導入で懸念されるのが資金面であったがEVIを利用すれば、少額からでも実施できるため、案ずるより産むが易しであったとのこと。

是非やりたいが経験や資金面に不安があるような観光地には、G&Cを進めて、まずは女神湖などのイベントを通じて環境配慮活動に馴染んで頂き、G&CやEVIの仕組みを活用しながらそれぞれの地域で独自の取組みを進めて頂くよう、案内・提案をしております。



ヘルシー美里 菊池さん



忠恕会 大野さん(左) 浦野さん(右)

無添加ヤシの油洗剤